## ２６．佐藤　崇史氏（株式会社資さん　代表取締役社長）

### 「人を中心に、人と人とが手を携えて一緒に発展していくまちに。」

**佐藤　崇史**（さとう　たかふみ）
広島県出身。
1997 年慶應義塾大学環境情報学部を卒業後、ソニー株式会社、ボストン・コンサルティング・グループ（BCG）を経て、2006 年株式会社ファーストリテイリングに転じ、経営変革・グループ戦略・人事・店舗運営・社長室等の責任者を歴任。経営変革を推し進めた。2018 年 3 月より株式会社資さんの代表取締役社長に着任し、第二創業期を牽引。現在に至る。

### 「北九州市は思いや愛情にあふれている」

北九州市の皆さんは、思いや愛情にあふれています。当社は北九州市で生まれ、北九州市に育てていただきました。北九州市出身の従業員も多く、U・I ターンの受け皿にもなっています。そのため、北九州市の発展に貢献したいという思いを持っている者が多いのです。

2018 年に東京で開催された北九州市の魅力発信イベント「KitaQ フェス」に出店した際、北九州市出身者やゆかりのある方々が首都圏全体から集まってくださいました。また、関西圏へ店舗を出店するにあたり、2023 年 8 月～9 月にかけ、2 週間ほど阪神百貨店・梅田本店に催事出店しましたが、オープン前から 100 人以上が並び、2 時間待ちになりました。これも北九州をはじめとした、九州出身の皆さまが、ご来場くださり、クチコミを広げてくださった賜物だと思います。当社の強みはたくさんの「資さんファン」のお客さまたちに支えられていることです。北九州市在住の方も、外に出られた方も、「資さん」を盛り上げようとしてくださっているのが伝わります。

### 「多様な人を受け入れ、協力できるまち」

私が社長として着任したのは約 6 年前です。北九州市の人たちは他県出身者である私を温かく迎えてくださいました。官営八幡製鐵所の時代から、外から来た人と一緒に力をあわせ発展させていこうという土壌が、現在も受け継がれている部分があるのでしょう。

当社も、北九州の人間だけで、ということは全くなく、もともと資さんで働いていたメンバーと、私のように途中で仲間になったメンバーが混在しており、みんなで力を合わせていこうという雰囲気があります。一緒に盛り上げていこうという文化が、明治維新のころから根付いているのではないでしょうか。

商人のまちであった福岡市のうどんは柔らかいですが、当社のうどんは表面はやわらかく、中はもちもちとした食感が特徴の食べ応えのある麺です。重工業が栄えた、かつての北九州市の工場等で肉体労働をされる方がお客さまの中に多く、お客さまの声を聞きながら、好みにあわせて改良し開発したものです。ぼた餅もその当時、屋台で提供していたという、北九州市独特の食文化を踏襲したもので、うどんに合う様に甘さ控えめにしています。食は地域の文化や人と深く結びついています。北九州市で育まれた食文化は北九州市を体現していて、様々な人を受け入れる北九州市で育っている味だからこそ、「資さんうどん」も様々な土地で受け入れられているのだと思います。

### 「環境・文化的に住みやすいまち」

北九州市は住みやすいまちだと思います。インフラが整っていて、それぞれの地域に核があ

ります。日本各地で中心部と過疎地域の差が開くという状況が多くみられる中、7 区それぞれにインフラが整っているのは珍しいですし、強みだと感じています。また、子どもを育てる環境も充実しています。子育て交流プラザ（元気の森）やグリーンパーク、プールなど、子どもたちがのびのびと遊べる環境があり、そこも大きな魅力の 1 つです。

そして、食事がおいしい。当社の他にも、おいしい個店のうどん屋もありますしラーメン店や韓国料理、中華料理等、多様なジャンルのお店があります。また、豊富な魚介類、農産物（タケノコ、トマトなど）もあり、本当に食資源が豊かなまちだと思います。人のベースは衣食住ですが、特に食について強みがあるまちなのではないでしょうか。

### 「魅力を伝えれば支持が集まるはず」

広報面で本当にありがたいと感じるのは、芸能人やスポーツ選手などの影響力のある方々が自然発生的に「資さんうどん」を宣伝してくださる点です。例えば、声優業界では「資さんファン」を公言してくださっている方が多く、それをきっかけに食べに来てくださる方がいます。非常にありがたく「魅力を伝えていく」ということの重要性を感じます。

北九州市には、まだ世に出てないアピールポイントが沢山あると感じます。より積極的に魅力を発信していくことで注目が集まるのではないでしょうか。

### 「先進的な取組に開放的なまち」

北九州市は先進的な取組に寛容であると思います。世間的な認知はこれからかもしれませんが、先進的な DX の取組みをしている企業も多いです。ベンチャー企業も集まってきており、勢いのある企業が多いですよね。やはりそれも、多様性を受け入れる北九州の風土が関係しているのだと思います。未来に向けたパワーが、今生まれつつあるのではないでしょうか。

### 「福岡市とともに九州のツートップに」

また、北九州市は地政学的なメリットが大きい場所に所在しています。九州全体にも、本州にもアクセスが良く、アジアにも近いです。北九州空港を拠点に人の交流がより活発になれば、さらに発展の可能性があると思います。九州全体が日本の 1/10 経済圏だと言われていますが、北九州市には福岡市と同等以上にハブになれるポテンシャルがありますし、それぞれの良さを活かしてツートップになれたら良いと考えます。北九州市には、事業の中で日本、世界全体の視点で考える企業が多いと感じます。そういった企業が手を携え取り組んでいくことが、北九州市がさらなる進化を遂げるためのポイントだと思います。

### 「人を中心に、協力して発展するまちへ」

今後企業を発展さえていくうえで大事なのは、やはり「人」だと思います。新しい考え方を受け入れ、協力していく姿勢が重要です。個々の多様性をお互いに認め合い、共に尊敬し合いながら仕事に取り組める環境を作っていきたいです。それは社内だけではなく、同じ北九州市の企業同士でも、連携を図りながら様々なコラボレーションしていくことができれば面白いですね。

新しい技術の活用に走るあまり、無機質で単純に便利に向かって進んで行くことは北九州市らしくないと思います。心が通うこと、助け合うことが重要ですし、住んでいる人たちの良さが生かしながら、進化をしていくことが大切です。北九州市は、「人」を中心に、手と手を携えて一緒に発展していくまちを目指すべきであると考えます。その同じベクトルにみんなで向かえば北九州市がさらに発展するのではないでしょうか。